

## ●プレゼンテーション

### 迅速マルチ自動分析装置ディメンション RxL Max-HM のご紹介

○今出川 徳子(デイドベーリング株式会社マーケティング部)

近年、病院を取り巻く環境は益々厳しくなっている。第4次医療法改正により病院病床は一般病床と療養病床に区分されたが、一般病床の総数は近い将来、現在の半数から3分の2程度に削減されると予測されている。削減の手段は主として入院日数の短縮であるが、現実的にはさまざまな競争による病院の「淘汰」である。病院が厳しい生き残り競争にさらされる中、昨年導入が始まったDPCでは、入院医療の臨床検査が包括化されている。このような状況下で、今までブラックボックス的な存在であった検査部は運営を改善し、病院経営に貢献していかなければならない。病院全体として平均在院日数の短縮が必要であれば、迅速に検査結果を報告し、診療に活かされることが重要である。つまり迅速検査と24時間検査の充実が時代の流れとなっている。

しかしながら、限られたマンパワーで従来業務に加えて、診療前検査の導入や救急対応を強化するためには、検査ワークフローを見直し、効率化することが必要である。デイドベーリング社ディメンション RxL Max-HM は、バーコード

付採血管の使用によりボタン1つで測定開始でき、また全日本語画面のスクリーンにはタッチパネルを採用しているため、誰でも簡単に操作することができる。測定可能項目は、一般生化学、電解質、特殊、血漿蛋白、ホルモン、血中薬物、心疾患マーカー等約90項目をラインナップしている。特に血中薬物については、煩雑な前処理業務を不要とした免疫抑制剤シクロスポリン測定試薬をはじめ、抗てんかん剤、強心剤、抗不整脈剤、抗生物質、解熱鎮痛剤等豊富なメニューを取り揃えており、ディメンションではわずか数分で測定できるため、外来診療中に検査結果を臨床側へ報告でき、適切な投与量の決定に非常に有用である。1台の機械で臨床ニーズに沿った検査項目を誰でも簡単・迅速に結果報告することができるディメンション RxL Max-HM は、検査ワークフロー改善の一役を担うことが期待され、ひいては効率化によって創出された余力を活かし、検査の業務を広げ、チーム医療に参画することで、院内における検査部の存在価値アップに貢献することができるであろう。

連絡先：今出川徳子 (03-3537-3810)